

少量多品種生産の熟練工不足に対応し生産機器の安全効率化へと企業連携

事例 12

サンコースプリング（港北区）は、世界でも屈指の板ばね専門メーカーである。

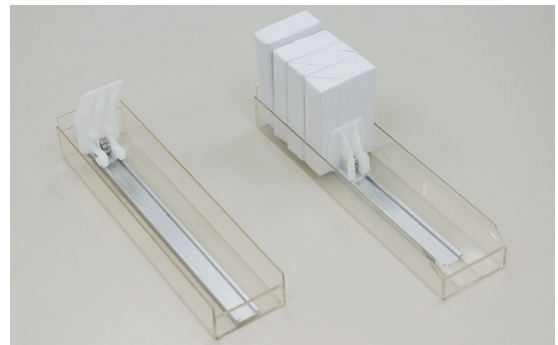
薄い帯状の材料を密着して巻き重ねたばねの先端を引き伸ばすと、弾性により戻ろうとする力が生じる。その力を利用して、物を移動、固定したり、押し出したりする際に使われている定荷重ばね。身近な場所では、コンビニのたばこ販売用ケースで一個一個を取り出しやすいように押し出しているのがそれだ。サンコースプリングでは、定荷重ばね「コンストン」の商品名で流通している。

IDECを初めて利用、自動化、省力化の得意な企業とマッチング

自動車、産業機械、医療用機械など、幅広い分野に製品を送り出しているが、熟練工による少量多品種生産が基本。問題になるのがその熟練工の不足である。そこで、生産設備を誰でも安全に効率的に作業できるよう改良していく必要が生じた。ところが、改造のために機器の仕様までは策定できても、それを設計から製作設置まで行える企業がなかなか見つからなかった。自分たちで改造するにも材料、部品が手に入らない。さらに、自社の生産に直接結びつくので、他社の協力を得るには、長く付き合っていくための信頼関係も重要になる。

今回、企業紹介してくれる公的制度はないかとネット検索し、IDECに相談するに至った。IDECで、自動化、省力化機器の設計から製作までを得意とする晃鈴産業（金

沢区）を紹介。その結果、まずは、プレス機械改造に着手した。誰でも安全に作業ができるようにすることで、人材不足を補い生産を効率化していくための第一歩となっている。今後も段階的に自動化を拡張していく予定である。



定荷重ばね



改造されたプレス機械

サンコースプリング株式会社
横浜市港北区綱島東 5-10-41
代表取締役 斎藤 健次
TEL : 045-543-7701
<https://sunco-spring.co.jp>

中小企業連携でお互いの苦手分野を補完、受注案件の拡大に

事例 13

第一鋳金（都筑区）は、厚物の板金・製缶を得意とする板金加工会社。主にエレベーターを建物の構造部分にとめるための支持部品である「レールブラケット」の製造をメインに、金属部品の加工を手掛けている。「板金屋」である同社には、ありとあらゆる依頼が来ていたが、「お客さんの困りごとは断らない」というのが先代社長のモットー。時には、難しい加工もあった。

I D E Cでは、お互いが自社の苦手分野を補うことで受注の幅を広げられる協業先として、金属の曲げと溶接技術を得意とするツカサ工業（都筑区）とのマッチングを行い、補完関係の構築をアレンジした。

「PETボトルラベル剥がし」を開発し 販路拡大図る

主力事業の板金加工を手掛ける中、顧客ニーズを受けて「破碎機」の製作もしていた。ブロックリーの芯、極めて硬いお菓子、PETボトル…。さまざまなものを破断する機械を製作したが、同様の機械は他社でも作られていた。それならば、と純度の高い再生ペレット生産の鍵となる「PETボトルのラベル剥がし」に着目。自社製品「ボトルフレンド」として改良を重ねてきた。

I D E Cは、技術相談の他、展示会出展後のフォローなどの営業方法をアドバイス。2018年に完成した改良版では、ラベル分離率95%までを実現、1時間で約500キロのPETボトルが処理可能となった。「PE

Tボトル再生材の主な輸出先である中国で、再生材の純度が重要視されるようになった。それに伴い、問い合わせは増えている」と廣瀬則子・常務取締役は言う。今後はさらなる販路開拓を目指している。



PETボトルラベル剥がし機「ボトルフレンド」



厚物の板金・製缶を得意とする同社

株式会社第一鋳金
横浜市都筑区川向町 922-49
代表取締役 廣瀬 久和
TEL : 045-471-5225
<http://www.fmf-daiichi.co.jp>

超音波画像装置の用途を拡大、 ダイエット成果を“見える化”

事例 14

グローバルヘルス（鶴見区）は、2004年11月設立の産業技術総合研究所発のベンチャー企業。医療用のみに用いられていた超音波画像診断装置だが、同社はこの技術をヘルスケア用にアレンジ。筋肉や脂肪の厚さ、質などを測定する非医療用製品「みるキューブ」を開発、フィットネスクラブなどに納入している。

田中寿志・代表取締役は元スポーツトレーナーという異色の経歴。トレーニング効果の評価時に、超音波画像装置で筋肉画像を見ることの有効性を知り、この技術をヘルスケアや家庭用にも広げられないか考えたのが、起業の出発点だ。「みるキューブ」は腹部や大腿部など、超音波センサーを当てるだけで画像を映し出す。例えば「皮下脂肪が何ミリ減ったのか」「筋肉の霜降り具合」（運動不足度）などが一目で分かり、ダイエットやトレーニングの効果をとても分かり易く“見える化”する革新的な製品だ。

横浜市立大学と連携、 家庭用を開発し普及を目指す

そんな同社では現在、家庭用のモバイル開発を進めている。A4サイズの大きさの「みるキューブ」と比べると、手のひらサイズに小型化する見込み。超音波センサー（プローブ）の内部に基板やICを組み入れることで実現できるという。

「2020年の東京五輪までに製品化したい」と田中社長。家庭用では、乳がんの手術を終

えた人がセルフチェックすることで、発症の恐れがあるリンパ浮腫の早期発見などに活用してもらう。I D E Cの紹介により、横浜市立大学と連携することになり、同大学付属病院で臨床実験も実施し、その有効性を検証できている



同社が開発した超音波画像装置



田中社長

株式会社グローバルヘルス
 横浜市鶴見区小野町 75-1
 リーディングベンチャープラザ 1号館 5階 506号室
 代表取締役 田中 寿志
 TEL : 045-642-4601
<http://www.globalhealth.co.jp>

内製化率を極限まで高め アルミ製品の短納期実現

事例 15

サンエス（港北区）は網戸やサッシなどを手掛けるアルミ製品の製造販売企業。平成元年の設立以来、成長を続ける同社の経営は実に独創的。外注をほとんどせずに、極限まで内製化を進め、生産から配送までを自社でこなす。たとえ特注品であっても当日、翌日には届くシステムを構築。「納期に競争力がある会社こそ勝者」と澤幡里久・代表取締役は語る。大手メーカーと同じ規格品の生産はせず“特注品”に絞っている。工場で扱っているアルミ製品は、どれも寸法が異なるものばかり。澤幡社長によると、以前は網戸やサッシを製造販売する企業は30社程度あった。それが時代とともに淘汰が進み、今では大手メーカー数社しか残っていない。

ここで問題が出てくる。築年数が古い住宅などで、網戸やサッシが壊れてしまったら、そもそもメーカーが残っていない可能性がある。当然、寸法にマッチした代替品が見つからない。そこで同社の出番となるのだ。提携業者から寄せられた寸法の情報を基に、即生産に取り掛かる。そして短納期で届けている。

鹿児島大学との産学連携で 「空気清浄網戸」を共同研究

オリジナル製品の開発も展開している。オリジナルの住宅用宅配ボックスや修繕用品など多岐に渡っている。2017年にはIDECの仲介により、鹿児島大学と産学連携。花粉症や火山灰をシャットアウトする「空気清浄網戸・ハイキャッチ」の製品化にこぎつけた。

また、広報戦略マネージャーからマスコミ発表についての支援も受け、同製品を各種メディアが取材することになり、認知度も高まった。



共同研究した火山灰など通さない空気清浄網戸



澤幡社長

株式会社サンエス
横浜市港北区新吉田東 8-53-14
代表取締役 澤幡 里久
TEL : 045-542-5400
<https://sanesu.net>

デザインを数値化、産学連携で 136年目の新たな挑戦

事例 16

キタムラ（中区）は、2018年で創業136年を迎える横浜元町ブランド。「K」のマークや皇室御用達バッグとしても広く知られている。1970年代後半に流行したハマトラ（横浜トラディショナル）ブームでは、同社のバッグが「三種の神器」とも言われた。

「歴史が古い会社だが、老舗という言葉は好きではない。『変化より進化を』と、常に新しい挑戦をするのが当社。お客さんが次に来た時に喜んでもらえるような“ものづくり”を大切にしている」と、辻桜・広報担当は話す。

共同開発の経験が職人にとってもプラスに、次のステップへとつなげ

同社はこれまでも、JAXAやスリーエムなど、さまざまなコラボで新作を生み出してきたが「産学連携」は初めて。

今回、共同開発したのは3次元構造のデュパンの「サイクライド」と呼ばれる、特殊な曲面デザインを分かりやすく再現したバッグだ。縦横34㍉、マチ21㍉。44枚の短冊状の牛革を、強度が出るよう順番に従いドーナツ型に編み込んだもの。

開発にあたり、横浜国立大学の前川卓教授がキタムラにラブコール。IDECを介して両者が知り合った。特殊形状の実現に職人も苦勞し、試作と検討を重ねた。構想から約3ヶ月、完成品は大学見本市に展示された。製作は、3次元設計で数値化した設計図から型紙を起こし、配色や機能性を踏まえたデザイン

をキタムラが加えた。牛革の編み込みや縫製も役割分担での共同作業。商品化の予定はないが、新しい挑戦は職人にとってもプラスになった。

共同製作の技術を応用した次なる挑戦として、2018年のキタムラ秋冬の新作商品に向けた共同開発第二弾が進んでいる。



常に進化する同社の製品



共同開発したバッグを手にする辻桜・広報担当

株式会社キタムラ
 横浜市中区元町4-178
 代表取締役 北村 宏
 TEL : 045-664-1189
<http://www.motomachi-kitamura.com>

社員教育を重視し、 驚異的な精度を実現する特殊ワイヤーメーカー

事例 17

協立金属工業（金沢区）は、ステンレス銅線やピアノ線、リン青銅線などを製造する、国内有数の技術力を持つ特殊伸線ワイヤーメーカーだ。厳しく管理された純度の高い素材から「高張力」「高強度」「高潤滑」と三拍子そろった平滑なワイヤーを提供している。

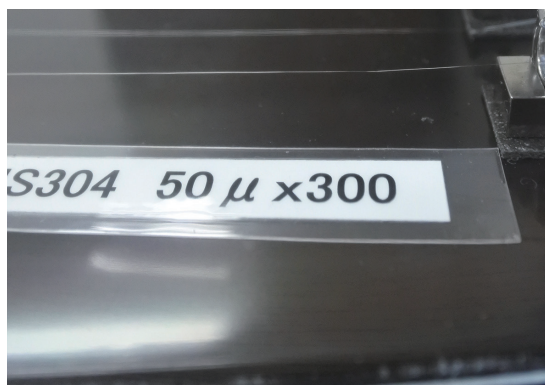
同社の製品は、独自の特殊伸線工程や表面処理を施すことで、ワイヤーの素材となる金属の特性を損なわない高精度な表面を実現。しかも、超極細線は最小線径 0.010mm、最大線径 0.500mm、公差 ± 0.1 ミクロンという驚異的な精度も達成している。精密ばね用線や医療用線、鍼灸用線など多岐にわたる分野で、こうした技術で生まれた伸線が不可欠となっている。

産学連携により、社員が大学研究室で専門知識を習得

I o T 活用による生産効率化を進めている。横浜市や N T T 東日本と協力し、工場内のネットワークに対応していない生産設備に対し、後付けによりセンサーなどを設置。「ライン稼働状況の把握」や「工場の見える化」を図っている。一方、産学連携にも熱心に取り組んでおり、I D E C コーディネーターがマッチングした東海大学精密工学科と交流する。

「産学連携と言えば、企業と大学との共同開発などをイメージするが、それとは異なる」と松村洋一・代表取締役。そして「企業は製品を生産することにかけては長けているが、

そもそも、そういった技術の学術的な知識がない」と説明する。そこで同社では毎年、社員が同大学研究室に通い学んでいる。社員たちが専門的な知識も身に付ければ、いずれは新技術・新製品開発にもつながるとしており、技術だけでなく開発力も磨いている。



「高張力」「高強度」「高潤滑」の平滑なワイヤーを提供



松村社長

協立金属工業株式会社
横浜市金沢区福浦 2-8-23
代表取締役 松村 洋一
TEL : 045-788-3081
<http://www.kyoritsu-metal.co.jp>

横浜の製造業 10 社がオープンイノベーションで技術を世界に発信！

事例 18

ヨコハマ・メーカーズ・ビレッジ（YMV）は、横浜市内の若手経営者 10 社で構成された組織。横浜市の「チーム de ものづくり」応援事業の支援を受けて活動を実施していた。

さらに IDEC の支援により、経済産業省の JAPAN ブランド育成支援事業の採択を受けイタリア・ミラノで開催された世界最大のデザイン見本市（ミラノ・サローネ）に出展し、デザイン力と技術力を発信した。

国費の獲得により、プロジェクトの進捗が加速

「日本はデザイン分野で発展途上と言われるが、中小製造業の技術力をいかせば、世界にアピールできる製品を作れることを示すことができた。思った以上の反響があり、僕たちの自信になった」 YMV のリーダー、ニッター（金沢区）の藤澤秀行・代表取締役は、デザインの本場・ミラノでの挑戦を振り返る。出品にあたっては「金属と花」をコンセプトとし、相反する無機と有機、硬さと柔らかさの融合を花器で表現。素材はアルミ、ステンレスなどを使用し、YMV の各社が持つ機械加工、精密加工、旋盤加工、ワイヤカット、絞り、溶接などの技術を使い、一社単独ではできなかった新しいものづくりに挑戦した。

例えば、15 枚重ねると壺のようなシルエットの花器になり、単体でもボウルや一輪挿しとして使える「ミラージュ（蜃気楼）」という作品は、第一絞製作所（港北区）の絞り加

工とニッターの金型製作、切削加工で実現した。販売用として持ち込んだブローチも展示分を残し完売。出展後、インドのキッチンメーカーやオランダ王立デザイン事務所からオファーを受けた。2018 年も「REFLECTION / SHADOW」というテーマで出展、2019 年に向けた製作も始まっている。YMV の世界への挑戦は、まだ始まったばかりだ。



YMV のメンバー



作品を説明するニッター藤澤社長

< YMV 企業情報 >

ニッター、ミナミ技研、落合製作所、関東精密、中越工業、オースズ、本間製作所、第一絞製作所、三陽製作所、魚のぶ
<https://www.y-m-v.jp>

歯車生産で精度に絶対的自信、 ロボット導入で生産性向上

事例 19

「精度に自信あり」そして「精度にこだわりあり」。光輝化成（都筑区）は超精密なプラスチック成形加工を得意とする企業。その技術は複合機・プロダクションプリンター分野に活用され、同社ではこれら装置に組み込まれる高精度歯車を製造している。

その精度は、新 J I S 規格で高精度に当たる「N7」レベルだ。工場で生産する歯車は多品種で、月 150 種類にも及ぶ。内歯歯車や高精度はすば歯車、耐熱歯車、ドラムフランジ……。形状や大きさもそれぞれ異なっているが、共通するのはいずれも高精度という点だ。ミクロン単位での精度が求められることもある。

アドバイス受け申請書をブラッシュアップ、 ハードル高い事業に採択

そんな同社では、一部の歯車の生産工程にロボットを導入。ハードルが高いとされていた「平成 29 年度ロボット導入実証事業」に採択されたことで実現した。申請までは I D E C コーディネーターが何度も相談に乗り、提出書類のブラッシュアップを支援。小野寺理・代表取締役は「最初は書き方も分からなかったが、アドバイスをもらって仕上げられた」と話す。

導入した垂直多関節ロボットは、現在、人手や手間、時間がかかっていたベアリング歯車部品の生産ラインで活用されている。従来の工程は歯車のゲートをカットし、ベアリングをハンドプレスしていた。そのため、1人

が6時間作業して1,080個までしか生産できなかったという。それがロボット化で生産性が飛躍的に向上、24時間稼働して4,320個まで対応できる予定である。



高精度を実現した同社の歯車



小野寺社長と導入した垂直多関節ロボット

光輝化成株式会社
横浜市都筑区折本町 494-1
代表取締役 小野寺 理
Tel: 045-474-3810
<https://kouki-kasei.jimdo.com>

創業 100 年企業が時代の変遷の中で、 200 年企業を目指し新技術開発

事例 20

創業 1916（大正 5）年のツジマキは、「空気と水以外は何でも印刷します」をモットーに掲げ、ステッカー、ディスプレイ、工業部品など、多岐にわたるシルクスクリーン印刷、各種印刷物の企画・製作を手掛けている。かつては横浜の地場産業として栄えたシルクスクーフの印刷を手掛けていたが、時代の変遷に伴い、業務内容も変化していった。

2016 年、創業 100 年を契機に、辻巻晋輔・代表取締役が 3 代目として事業を継承し、社名も「有限会社辻巻製版所」から「株式会社ツジマキ」へ変更。ただ、企業理念である『「見えない価値」を「見える価値」に印刷する企業』は変わらない。このたび、長年培ったノウハウを活かし、新技術開発に成功した。

国費の獲得により、プロジェクトの進捗が加速

I D E C による申請書のブラッシュアップを重ね、ものづくり補助金に採択。金属やガラス素材などに対して、「超高硬度」にコーティングできる印刷技術「TSコーティング」を開発した。薄くコーティングを施した素材表面は、耐熱性能約 800℃で、キズから構造物を守り、維持コストを大幅に削減する。さらに硬度 6 H の鉛筆と同じ硬さになり、マジックで落書きされても簡単に拭き取れる。金属（鉄、ステンレス、アルミ）やガラス、無垢木材、タイル、石材といった素材に対し使える。

開発後は、I D E C が大手企業に紹介した

所、硬度の高さに興味を示し、マッチングも実施した。2020 年の東京オリンピック開催に向け、公共施設内の改修作業の増加傾向にある中、販路拡大を期待する。200 年企業を目指し、挑戦はつづく。



超高硬度コーティングが施された東京メトロ・ホーム椅子



辻巻社長

株式会社ツジマキ
横浜市南区大岡 3-13-12
代表取締役 辻巻 晋輔
TEL : 045-741-4856
<http://tsujimaki.net>

総合金属加工メーカー、 サーボプレスを用いた冷間鍛造で実績

事例 21

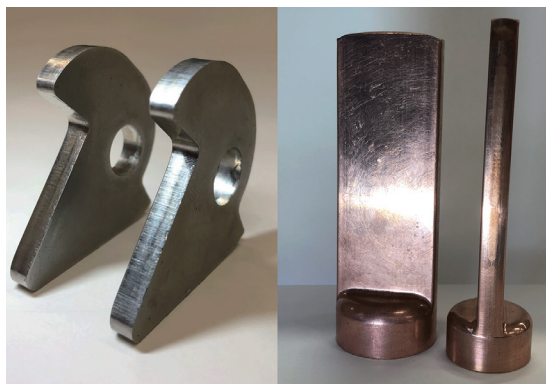
三陽製作所（金沢区）は、金属加工に関することなら、ほぼすべて対応していると言ってよい“金属加工の総合メーカー”だ。扱っている製品は、スチール家具関係部品、農業用機械部品など多岐にわたる。いずれの分野でも近年、金属加工では複雑な形状や精度が一層求められている。

同社では設計からプレス、板金、溶接、パイプ加工、金型・機械加工まで自社で一貫してこなしており、中でもサーボプレスを用いた冷間鍛造（金属素材を室温で金型を用いて圧縮成型する技術）で実績を出している。さらに、従来のプレス加工では得られなかった平滑なせん断面やミクロン単位の精度を確保できるプレス加工技術「ファインブランキング」なども展開する。また、現場では一部工程に双腕ロボット「NEXTAGE」も活用。システムインテグレーターも自社で育成している。

大学研究者と現場一体で技術検証、サポ イン事業にも採択

そんな同社では、金属加工の分野で、他に追従を許さない高度な最新技術を持つため、現場目線での理論の構築とレベルアップを一緒に検討してもらえる大学研究者を求めている。そこで I D E C コーディネーターが東京電機大学の阿高名誉教授らを紹介。これが縁結びとなり、共同研究を開始。平成 28 年度には「サーボプレスと C A E の高度利用により、中～小ロット生産に対応したボンデフ

リーの分流冷間鍛造技術開発」のテーマで、経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）にも採択。I D E C が事業管理機関となり、研究は続いている。



冷間鍛造をはじめ最先端の加工技術を研究



水村社長

株式会社三陽製作所
横浜市金沢区朝比奈町 138 番地
代表取締役 水村 滋
TEL : 045-781-5873
<http://sanyoseisakusho.co.jp>

超小型カメラの開発企業、創業時からの支援で成長遂げる

事例 22

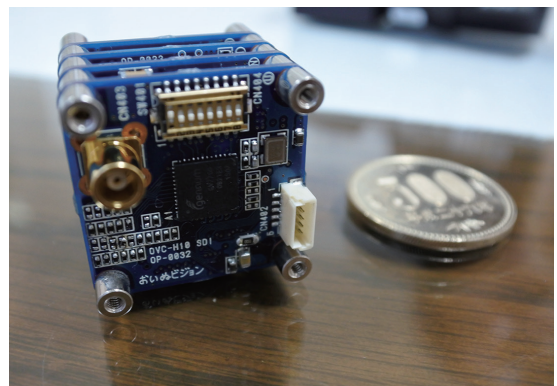
おいぬビジョン（鶴見区）は、映像機器のベンチャー企業。医療やアミューズメント分野、セキュリティ分野など、各種センサーを用いた組み込みモジュールの開発・設計も手掛けている。このうち同社が得意とするのは、超小型の放送用カメラの開発。500円玉と同じサイズながらハイビジョン映像を撮影できる高性能カメラの開発技術を持っている。

「ニッチだが小型で高性能にとことんこだわる」という特徴から、同社のカメラは大手放送局でも採用。サッカーのゴールポストからの臨場感あふれる映像や、審判目線での映像を視聴者に届けることを可能にしている。現在は小型カメラの用途をセキュリティや産業分野などにも広げている。2017年には「九都県市のきらりと光る産業技術」表彰企業にも選ばれた。

自社技術にない分野でも連携し克服、納入につなげる

2012年12月に創業。小堀茂行・営業・技術統括部長は、大手電機メーカーのグループ企業でエンジニアとして、放送用カメラやハイビジョンカメラなどの開発に携わってきた。やがて同じ分野の中小企業に転職。技術だけでなく営業から生産、品質の知識を身に付けて独立。現在、税理士の資格を持つ奥さまが社長を務め、夫婦二人三脚で経営に当たる。創業当時はIDECの支援を受けながら「新産業ベンチャー起業化支援事業」に採択され、同補助金を活用してステップアップに

つなげた。また、最近ではリモコン付き防水カメラを受注し、IDECの仲介で出会ったインターマインド（港北区）と技術協力。無事に納入までつなげた。



開発した500円玉サイズの超小型カメラ



超小型カメラを手にする小堀部長

株式会社おいぬビジョン
横浜市鶴見区小野町 75-1
リーディングベンチャープラザ 1号館 512号室
代表取締役 小堀 若菜
TEL : 045-716-6384
<http://www.oinuvision.co.jp>

精密板金加工、デザイナーと連携したものづくりで世界へ技術を発信

事例 23

落合製作所（都筑区）は、デザイナーとのコラボにより、精密板金業の新たな可能性を見いだす。世界的デザイナー、デザインオフィス・nendoの佐藤オオキ氏が手掛ける作品の製作をするなど、デザイナーの心をつかんだものづくりを実践する。1965年創業の精密板金加工一筋の町工場。取引先も常時50社以上ある。納期厳守や最短当日出荷がウリで、急な案件があると、社内で「特急チーム」を編成し対応する。

そんな同社が2008年から新規事業として始めたのがデザイナーからの受注。以来、毎年コンスタントにアート作品を手掛けている。その一つが、nendoとの連携。毎年出展する世界最大規模のデザインイベント「ミラノサローネ」の出展作品や世界各国の美術館に収蔵されている作品に携わっている。

自社製品（アクセサリー）を開発、伊勢丹本店で販売し評判

2014年にIDECコーディネーターとIDEC職員、横浜市職員が訪問。さまざまな施策を紹介する中で、同社が販売に苦慮していたアルミ製アクセサリーについての相談が寄せられた。そこで、販路開拓マネージャーが支援し、渋谷のヒカリエでの販売イベントに出展し成功。さらに、伊勢丹本店での販売も実現し、口座開設につながった。

一方、本業の精密板金業では、キーボードのフレーム加工や温度センサーのスイッチカバー、医療機器などを中心に月400～500

点ほどの部品を加工している。「工業製品であっても、きれいに作ることにこだわっている」と落合健一・専務取締役は説明する。キズがなく、つなぎ目も目立たせない。そのためなら、段取りを重視せずに何工程でもやるという。“完成品のきれいさ重視”の姿勢がデザイナーたちの目に止まり、製作を任せられるようになった。デザイナーから作品のスケッチをもらい、同社で設計。細かなディテールにも手間と時間をかけて仕上げる。作品は



落合健一・専務取締役

世界中の人たちが目にする。落合専務は「メイド・イン・ジャパンのクオリティーを知ってもらいたい」と話している。



nendo 50 manga chairs

有限会社落合製作所 横浜工場
横浜市都筑区折本町333
代表取締役 落合 朝宏
TEL : 045-472-4431
<http://www.ochiai-seisaku.co.jp>

民間企業主導型が鍵、 継続的な地域貢献活動を実現

事例 24

自社のノウハウをフル活用して、地域の課題に取り組む。それが、太陽住建（南区）だ。同社は、住宅リフォームや防衛省住宅防音工事、太陽光発電関連のエネルギー事業を展開。太陽光発電の普及を目的に県が実施した「屋根貸し」マッチング事業にも参画していた。

2017年1月、横浜市住宅供給公社所有の空き家を活用して、井土ヶ谷アーバンデザインセンターの運営を始めた。防災機能をもつ地域交流拠点として、地域の人が集まる空間「おひさま広場」を併設したことで注目されている。

再生可能エネルギー普及のモデルケースに

「地域で生かされているのが当社、本業を通じて地域貢献をしていきたい」と、河原社長。自社の太陽光発電システムを備える「おひさま広場」を無料開放している。リビングラボとして地域で抱える問題を話し合う場や女性起業家のイベントなど、多い時には毎日のように利用されているという。

IDECコーディネーターと知り合ったことがきっかけで「都市部において民間主導型で行う再生可能エネルギー普及事業のモデルケース」として、他社に紹介されたり、講演の講師として呼ばれるように。昨年は、法改正に伴い地域貢献が義務化された社会福祉法人などに、障がい者が一部担う太陽光発電システム設置作業を提案している。空いている屋根を有効活用して、太陽光を発電。投

資家がシステムを買い取り、売電を行う。屋根を提供する代わりに20年保証付きの防水工事が安価で受けられるなど、貸し手・借り手ともにメリットも大きく広まりつつあるという。



おひさま広場



右から、河原英信会長、河原勇輝社長、近藤部長

株式会社太陽住建
横浜市南区井土ヶ谷下町 27-1 1階
代表取締役社長 河原 勇輝
TEL : 045-325-7133
<http://www.taiyojyukuken.jp>

横浜グローバルものづくり 企業ガイド

～先端技術でグローバルに挑む横浜企業の優れた製品や技術力を紹介！～



掲載例

<横浜グローバルものづくり 企業ガイド 概要>

■内容：横浜市内に事業所を有する「ものづくり企業」を紹介するため、毎年発行

マッチング創出へ

- ・ものづくりコーディネーターが市内企業、大手企業、大学、研究機関などを訪問する際、持参し、掲載企業の得意分野、得意技術などを紹介。
- ・I D E C横浜が主催・参加する商談会、展示会などで配布。

<参考：2017年版>

■発行部数：3,000部

■発行時期：2017年9月

■掲載企業：170社

■掲載料：年間14,000円（消費税込）

<活用のご案内>

マッチング先の企業探しに是非、ご活用ください。

※本事例集の事例3（8ページ）のように「大手企業から受注」といった、マッチング事例あり

下記、WEBからもダウンロード可能です。

http://www.idec.or.jp/renkei/guide/company_list2017.php

<掲載のご案内>

次回（2018版）の発行は、2018年夏頃を予定しています。

掲載にご興味ある方は、I D E C横浜までお気軽にお問合せください。

横浜ものづくりコーディネーター

総合コーディネーター

2017年4月1日現在(五十音順)

 <p>楠木 順一 アベキ ジュンイチ 元三菱プレシジョン(株)。中小企業診断士。IoT、VR、ネットワーク、組み込み機器(S/W・H/W・システム全般)、情報セキュリティに詳しい。</p>	 <p>飯田 博文 イダ ヒロフミ 元東芝(株)。医療画像診断機器システム事業、保健医療福祉情報システム事業に詳しい。</p>	 <p>和泉 雅喜 イズミ マサキ 元(株)島津製作所、コダック(株)、(株)ニコン。電子・映像機器の設計開発、品証、製造、IOT・AI分野に詳しい。</p>
 <p>磯村 正義 イムラ マサヨシ 元NEC(株)。機械、電気・電子、ソフトウェア、センサー等全般の制御システムの構築に詳しい。</p>	 <p>上原 康滋 ウエハラ ヤスシゲ 元(株)日立エンジニアリングサービス。技術移転、知財管理、販路開拓に詳しい。</p>	 <p>川久保 健 カワクボケン 元東京ガス(株)。英国・タイ・マレーシア・インドネシアに駐在。燃焼技術、蒸気利用、省エネルギー対策技術に詳しい。</p>
 <p>喜多 紘一 キタコウイチ 元(株)東芝。医療情報システム、セキュリティ、ネットワーク、地域連携医療情報システム、生体工学システム等に詳しい。</p>	 <p>小澤 茂幸 コザワ シゲユキ 元旭硝子(株)。化学、高分子、複合材料、有機エレクトロニクス材料に関する知識、技術、技術経営に詳しい。</p>	 <p>坂野 博行 サカノ ヒロユキ 元セイコーエプソン(株)。弁理士。機械、金属、電気材料、繊維製品、化学全般(バイオテクノロジー含む)等に詳しい。</p>
 <p>佐久間 利治 サクマトシハル 元日立製作所(株)。機械加工(NC加工含む)、射出成形金型設計、IT技術、特許(発掘、調査、活用)に詳しい。</p>	 <p>鹿田 洋 シカタ ヒロシ 元東芝(株)。機械加工、新製品開発、事業化支援、特許技術に詳しい。</p>	 <p>島崎 浩一 シマザキ コウイチ 生産性・QCD向上、技術力向上、戦略立案等のものづくり支援を15年以上行っています。中小企業診断士。</p>
 <p>関本 哲志 セキモト テツシ 元ソニー(株)。新規事業立上げ、業務改善、電気機器装置開発に詳しい。</p>	 <p>高安 篤史 タカヤス アツシ 総合電機メーカーにて組込ソフトの開発部長など歴任/中小企業診断士/IoT検定委員会メンバー/IoTビジネスモデル構築の実績多数。</p>	 <p>太細 貞治 タサイ テイジ 元NEC(株)。IT機器分野、電気・電子機器分野、半導体関連分野、経営革新、事業企画、新製品開発に詳しい。</p>
 <p>田村 昭 タムラ アキラ 元日本電池(現・株)ジーエス・ユアサコーポレーション)。電池・電気製品開発・販売、経営改革、販売企画、マーケティングに詳しい。</p>	 <p>辻下 敏夫 ツジタ トシオ 元富士通(株)、三菱商事(株)。IT・電機産業業界における生産、開発、営業・販売、中小企業・ベンチャー企業支援に詳しい。</p>	 <p>桐栄 純一 トウエイ ジュンイチ 元東ソー(株)。バイオテクノロジー、バイオ機器に詳しい。</p>
 <p>福田 水穂 フクダ ミズホ 元日産自動車(株)。CAEコンサルタント。CAE/CAD、画像処理に詳しい。</p>	 <p>福地 陽一 フクチ ヨウイチ 元三菱電機(株)。システム製品の企画・開発・事業化、CMMI、ISMS等の監査業務、システム化コンサル業務に詳しい。</p>	 <p>藤田 六朗 フジタ ロクウ 元三菱ガス化学(株)。化学・樹脂とくにプラスチック全般、ゴム、塗料、接着材に詳しい。</p>
 <p>古澤龍一郎 フルサワ リュウイチロウ 元丸紅(株)。中国駐在。海外取引、輸入業務、中国生産工場経営管理、海外現地法人運営に詳しい。</p>	 <p>松葉 憲英 マツバ ノリヒデ 元日本鋼管(現・JFEエンジニアリング)。施工計画・管理、下請け企業育成指導、商品開発、マーケティング等に詳しい。</p>	 <p>山崎 勝利 ヤマザキ カツシ 元味の素(株)。農薬化学、食品加工技術、特許調査、野菜の新機能性の評価および商品化、食品工場の品質管理に詳しい。</p>
 <p>山本 亮一 ヤマモト リョウイチ 元富士写真フイルム(株)。他、産学官全ての立場を経験。産学官連携、公的支援制度、表面処理技術に詳しい。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>お問い合わせ (公財)横浜企業経営支援財団 〒231-0011 横浜市中区太田町2-23 横浜メディアビジネスセンター7階 (TEL)045-225-3725 (FAX)045-225-3738</p> </div>	

I D E C 横 浜
支 援 成 果 事 例 集

～ものづくりコーディネーターが企業と育んだ～

公益財団法人横浜企業経営支援財団（I D E C 横 浜）

〒231-0011

横浜市中区太田町2丁目23番地 横浜メディア・ビジネスセンター7階

TEL：045-225-3700

<http://www.idec.or.jp>